

DIVERSITY & INCLUSION SYMPOSIUM

5つのテーマで語るダイバーシティ～社会と企業の未来～

分科会B: 介護

～仕事と介護の両立 社員や企業が地域社会とつながることの可能性～

プログラム

テーマ		主な内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none">■ 挨拶と分科会プログラムの説明■ 登壇者のご紹介
2	問題提起(MURC)	<ul style="list-style-type: none">■ 働く家族介護者を取り巻く環境や仕事と介護の両立上の課題等について共有します
3	企業からの発表	<ul style="list-style-type: none">■ 企業の人事労務担当者から、企業における仕事と介護の両立支援の取組状況、社員の仕事と介護の両立状況、両立上の課題、現在の課題意識、社員や企業の地域とのつながりの必要性・可能性について発表いただきます
4	介護専門職からの発表	<ul style="list-style-type: none">■ 家族介護者に対する支援を行う中で、介護専門職の視点から、働く家族介護者の両立上の課題や介護サービス等の利用の工夫、特に地域資源の活用や地域社会との繋がりづくりについて発表いただきます
5	家族介護者支援団体からの発表	<ul style="list-style-type: none">■ 家族介護者を地域で支える中で、働く家族介護者の地域との繋がり状況、繋がることで、どのような課題が解消されるのか、地域との繋がりを作るためにどのようにしたらよいのか等について、支援団体の視点から発表いただきます
6	問題提起(MURC)	<ul style="list-style-type: none">■ 両立支援制度や介護サービスの活用だけでは解決できないことがあります。働きながら介護をする人が地域と繋がることで、どのような可能性が広がるでしょうか
7	グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none">■ 両立支援制度や介護サービスを利用するだけでは解決できていないこととは何でしょうか。企業、介護専門職、自治体、地域支援団体等、それぞれの立場で考えてみましょう
8	グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none">■ グループディスカッション①で出し合った課題を解決するために、働く家族介護者、企業が地域社会とどのように繋がることができるかとよいでしょうか
9	グループ発表	<ul style="list-style-type: none">■ 各グループのディスカッション内容を発表していただきます
10	質疑応答・総括	<ul style="list-style-type: none">■ 登壇者との質疑応答■ 分科会の総括■ 全体会(後半)の案内

登壇者のご紹介

登壇者

■ トヨタファイナンス株式会社 人事部 労務人事グループ 主幹 篠原 宏美 氏

- 2002年トヨタファイナンス(株)入社。現在人事部労務人事グループでダイバーシティ全般を推進。自身も娘3人の育児、実義父母の介護を経験しながら仕事と両立。学び続ける姿勢を忘れず50歳で心理学専攻。産業組織心理学等を業務に活かしている。産業カウンセラー、国家資格キャリア・コンサルティング技能士。

■ 独立型・居宅介護支援事業所 ケアステーション地球人 主任ケアマネジャー 唐木 美代子 氏

- 看護師・保健師・主任介護支援専門員。看護師として病院勤務。臨床を経て行政保健師へ。寝たきりの方や家族の厳しい現実直面する。希望にて介護保険事業所へ出向。その後は介護支援課長として制度に関わる。現在ケアマネジャーとして奮闘中。

■ NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン スタッフ 森川 恵子 氏

- 実母の認知症発症を期に仕事と育児と介護の生活を送る。育児と同様に介護も最も身近で世話をする人への支援が大事と、アラジンの理念に賛同し活動を始める。ケアラズカフェ専任スタッフ。

介護分科会で考えたいこと

背景

法制度の充実等によって、仕事と介護の両立環境は改善しているが、急速な高齢化が進む中、介護を理由に離職する人は減少していない

問題提起

要介護者がさらに増えるこれからの社会において、介護離職を防止するためには、両立支援制度や介護サービス等の充実に加え、地域と繋がることが重要となるのではないか

本日のテーマ

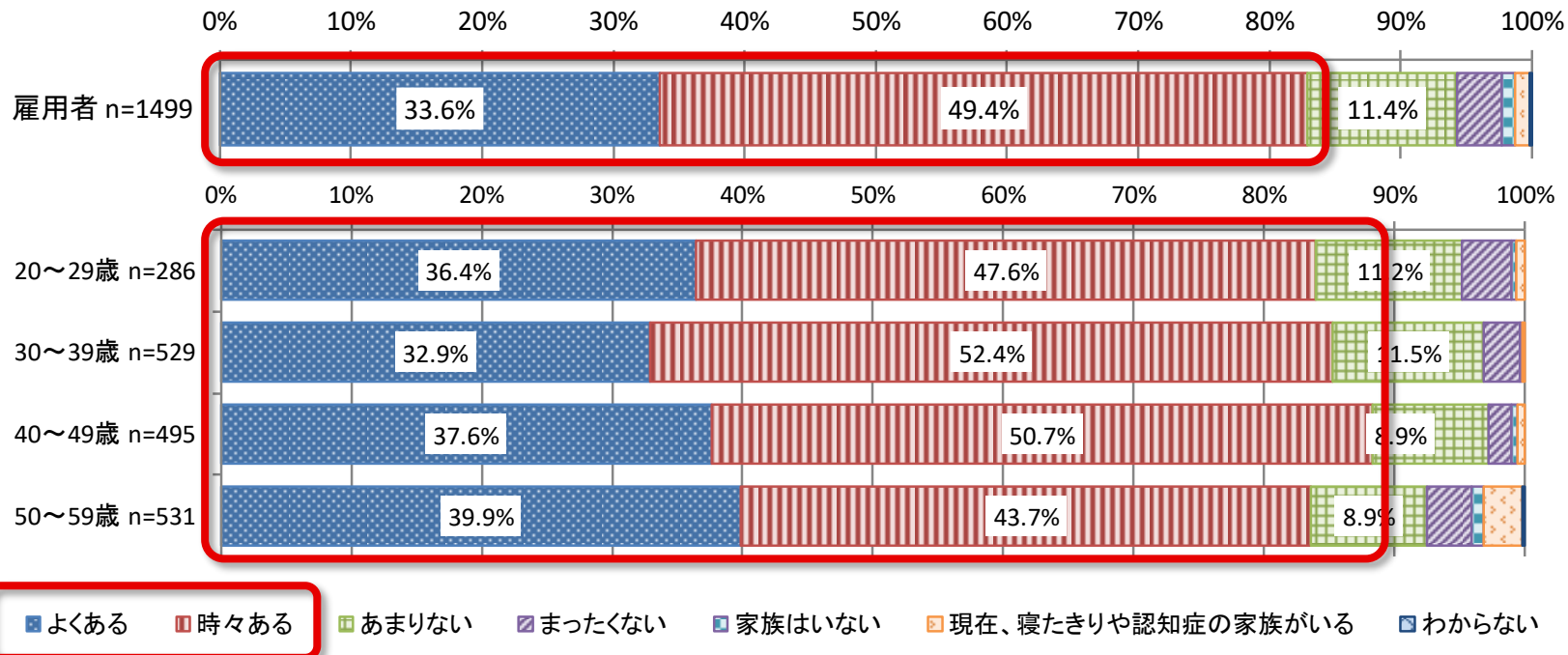
社員や企業と地域の繋がりをテーマに、仕事と介護の両立のあり方、介護者が自身の人生を主体的に送ることを支援する方法について考える

1. 働く世代の家族介護に対する不安の状況－(1)

■ 働いている人、働く世代は、どの程度、家族介護への不安を感じているのでしょうか。

20～59歳の働く世代の8割以上が、家族が老後に寝たきりや認知症になるかもしれないと、不安に思うことが「ある(よくある+時々ある)」と回答

図表1 家族が要介護者になる不安の有無（単数回答）

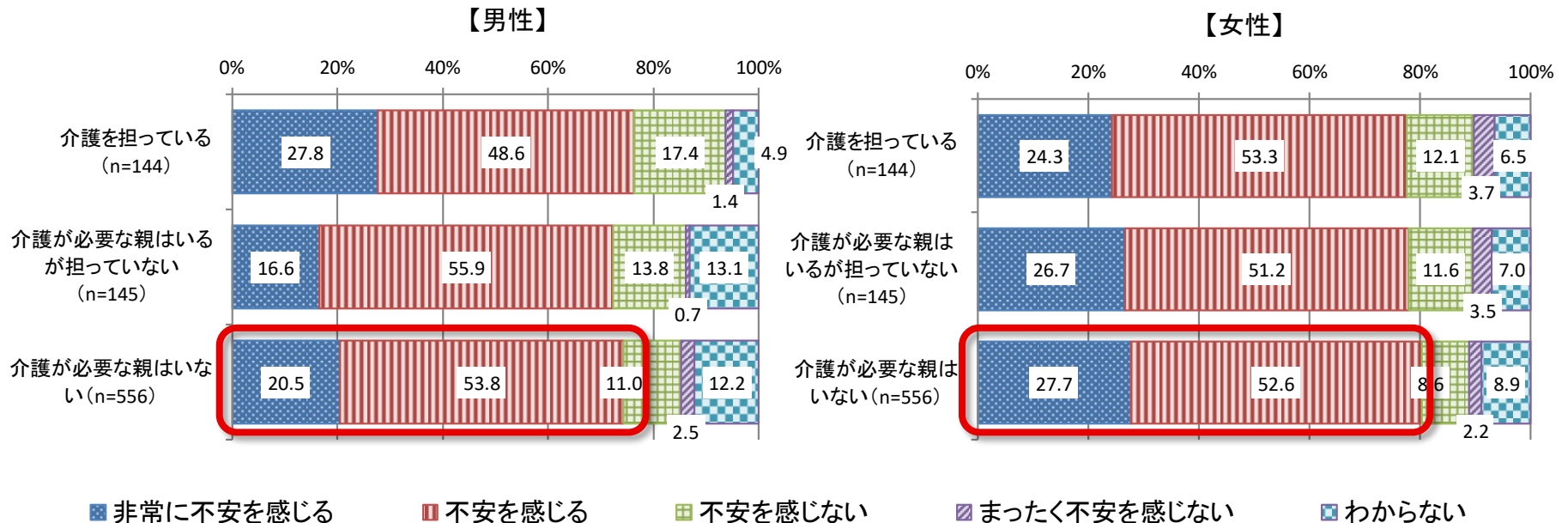


出所) 内閣府「介護保険制度に関する世論調査」平成22年9月調査

1. 働く世代の家族介護に対する不安の状況－(2)

「就労者」のうち、介護が必要な親はいない人でも、男女とも7割以上が不安を感じている(非常に不安を感じる＋不安を感じる)。

図表2 仕事と介護の両立に関する不安【就労者】(単数回答)

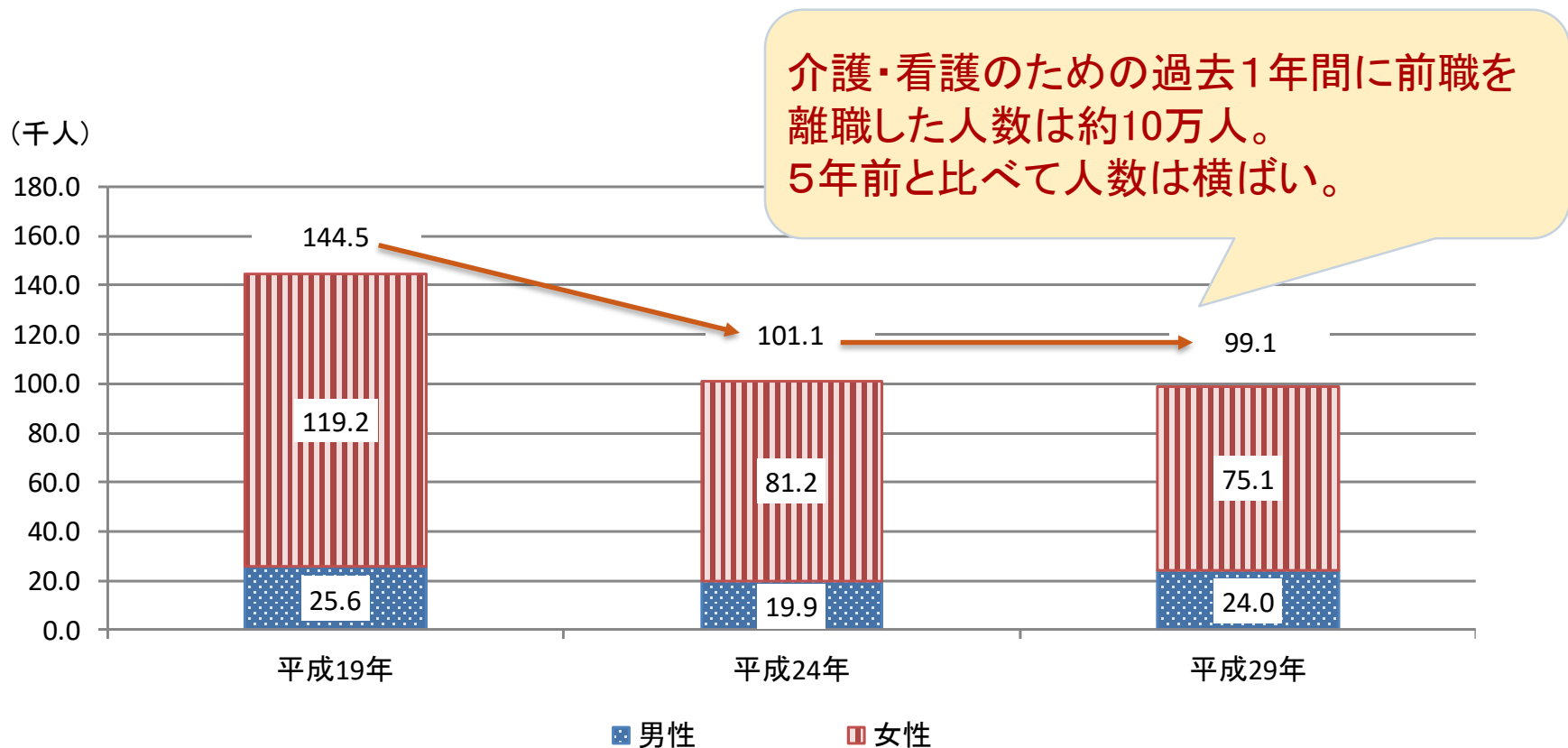


出所) 平成24年度厚生労働省委託調査：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「仕事と介護の両立に関する実態把握のための調査研究事業報告書」平成 25 年 3 月

2. 介護を理由とした離職の実態－(1)

■ 介護・看護による離職者数はどの程度あるのでしょうか。

図表3 介護・看護のために過去1年間に前職を離職した人数の推移

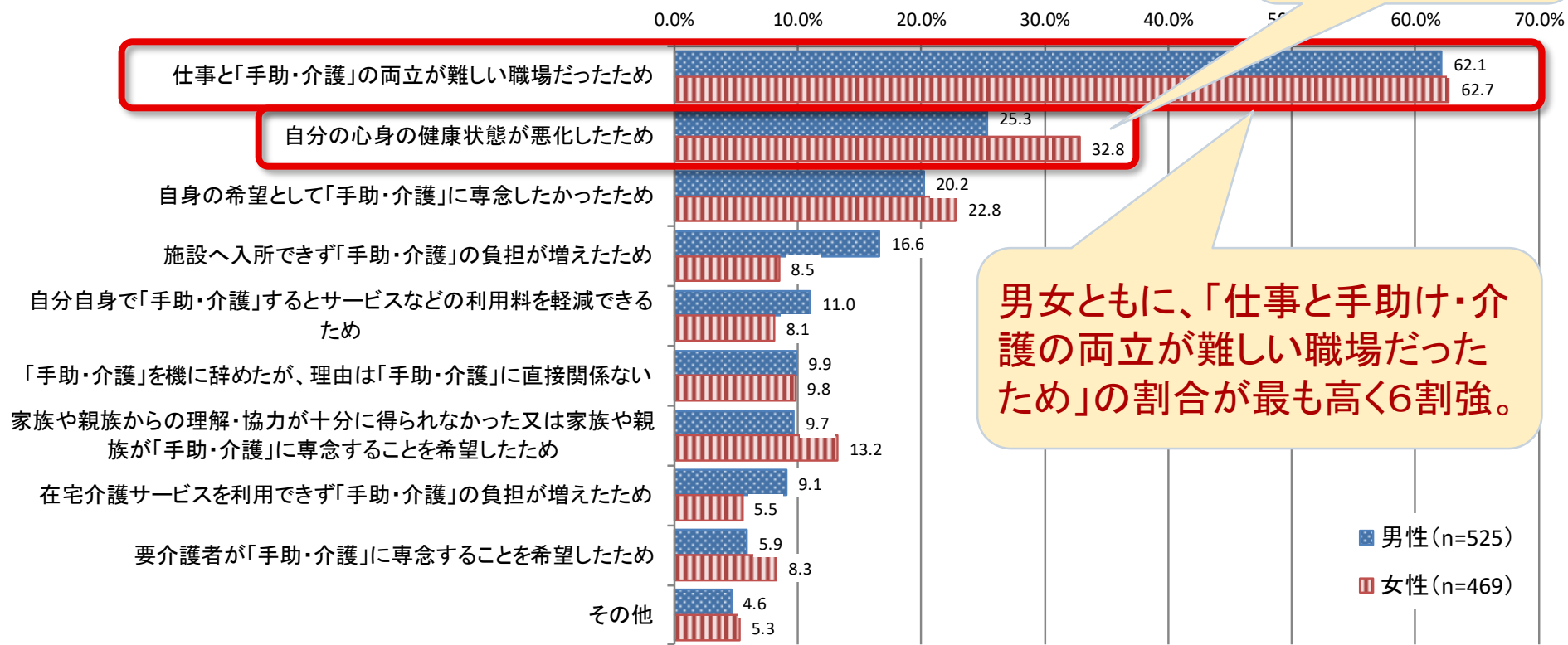


出所) 総務省統計局「平成29年就業構造基本調査」平成30年7月13日

2. 介護を理由とした離職の実態－(2)

- 介護を機に離職した人は、なぜ離職してしまったのでしょうか。

図表4 介護を機に離職をした理由（複数回答）



自分の心身の健康状態の悪化も女性には3割強。

男女ともに、「仕事と手助け・介護の両立が難しい職場だったため」の割合が最も高く6割強。

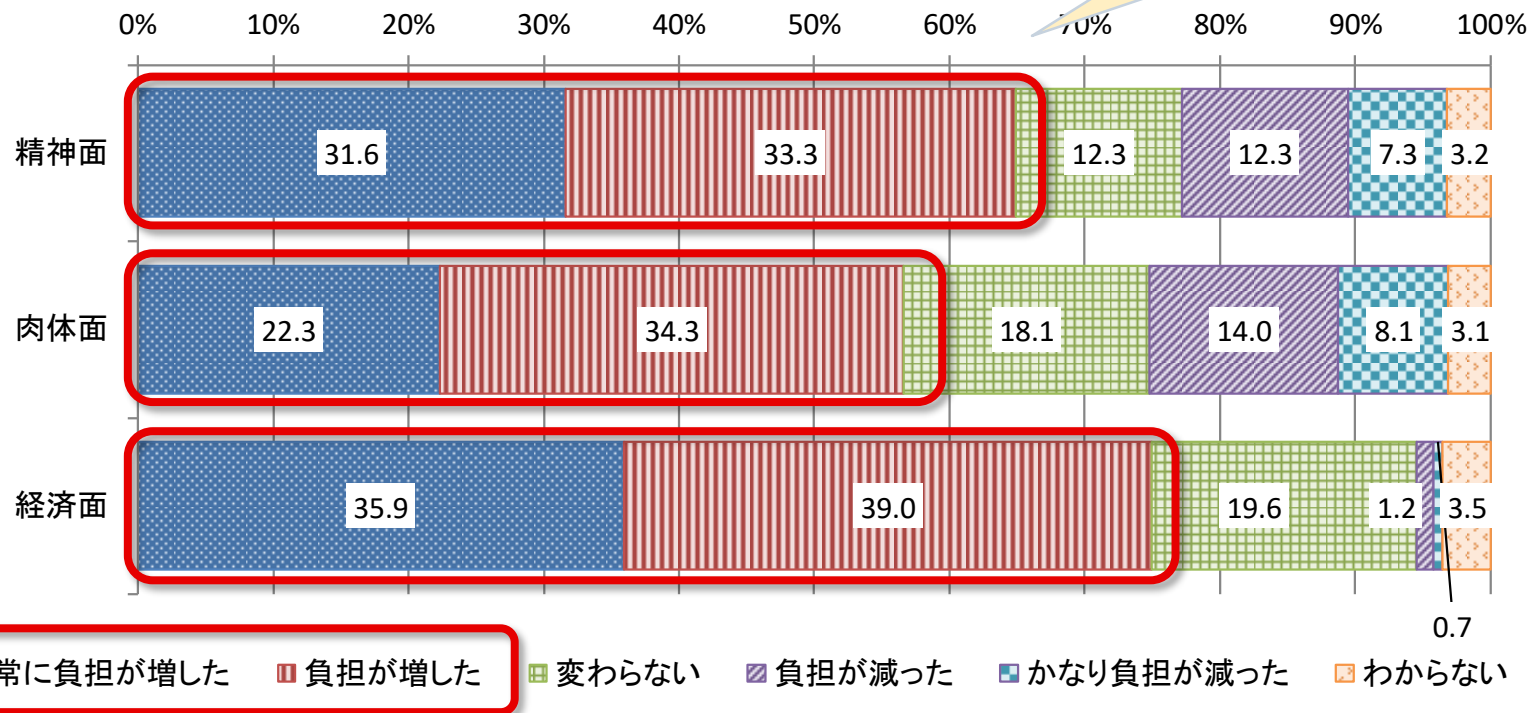
■ 男性 (n=525)
■ 女性 (n=469)

2. 介護を理由とした離職の実態－(3)

- 介護を機に離職した人は、その後の状況はどうなったでしょうか。

図表5 離職者の離職後の変化（単数回答） n=994

介護を機に離職した人の、離職者後の精神面、肉体面、経済面の負担感は、いずれも増している割合が高くなっています。

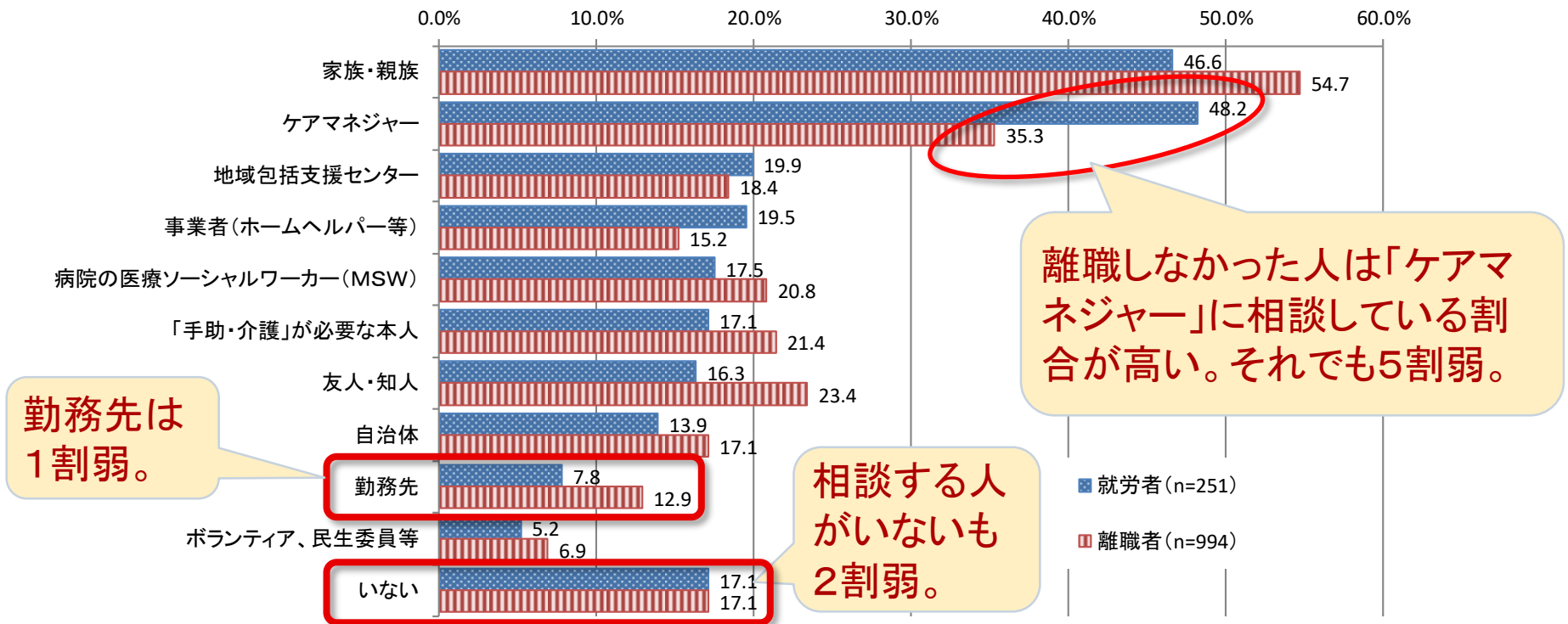


出所) 平成24年度厚生労働省委託調査：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「仕事と介護の両立に関する実態把握のための調査研究事業報告書」平成 25 年 3 月

3. 介護に関する相談や支援の状況－(1)

- 働きながら介護を行っている人は誰に相談しているのでしょうか。相談できる人はいるのでしょうか。

図表6 介護について相談した人（複数回答）



注1：自分が介護している要介護者すべてにかかわる相談。1人を介護している人も、複数人を介護している人も含まれる。

注2：「離職者」は、離職前の状況について聞いている。

出所) 平成24年度厚生労働省委託調査：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

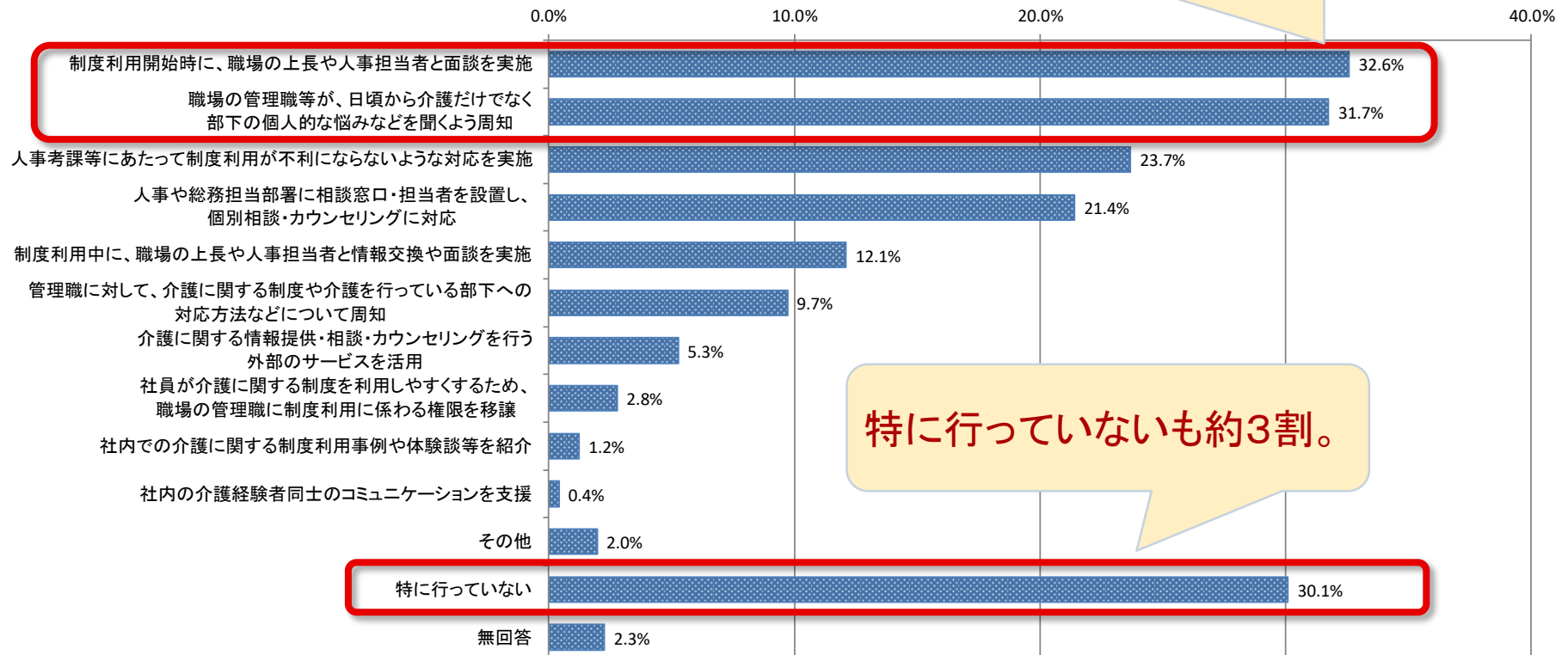
「仕事と介護の両立に関する実態把握のための調査研究事業報告書」平成25年3月

3. 介護に関する相談や支援の状況－(2)

- 企業は仕事と介護が両立できるように、どのような支援を行っているのでしょうか。

制度利用開始時に職場の上長や人事担当者との面談、職場の管理職等が日頃から介護だけでなく部下の個人的な悩みなどを聞くよう周知がそれぞれ約3割。

図表7 仕事と介護が両立できるよう支援するための取り組み（複数回答） n=967



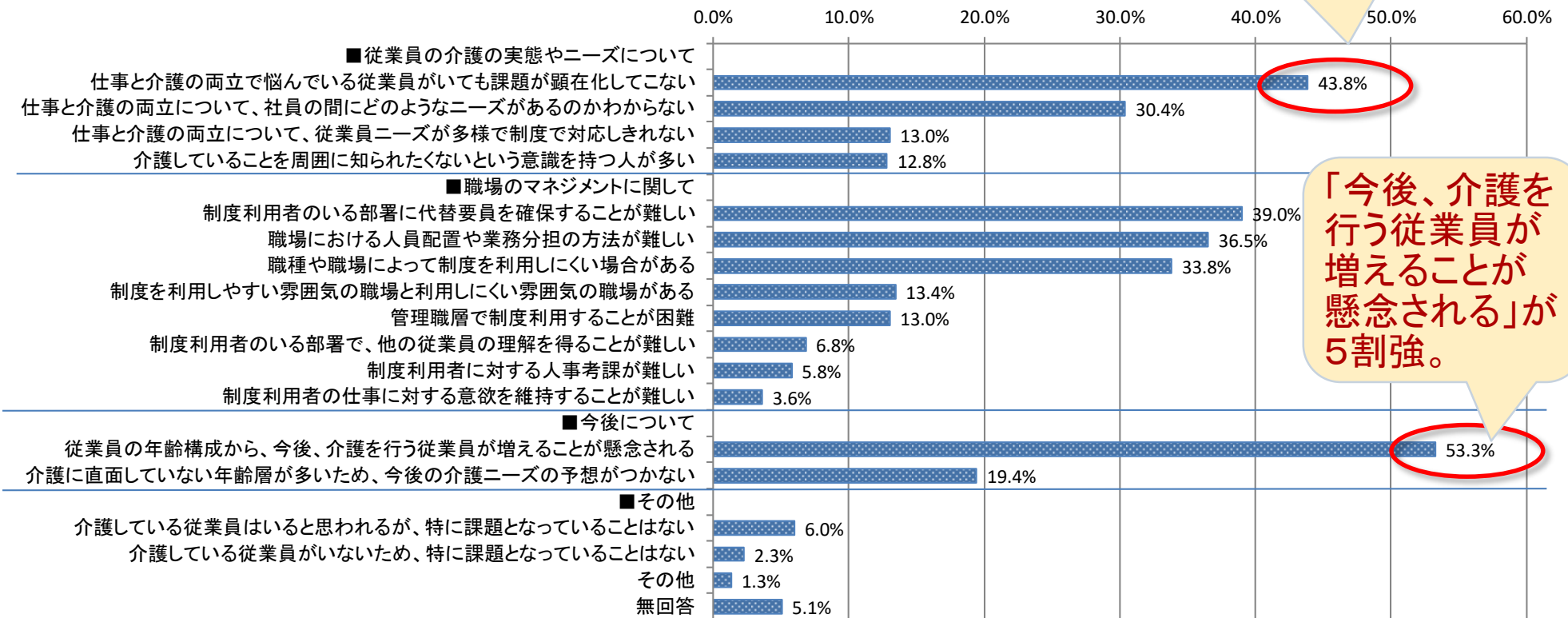
出所) 平成24年度厚生労働省委託調査:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「仕事と介護の両立に関する企業アンケート調査」平成 25 年3月

3. 介護に関する相談や支援の状況－(3)

■ 企業は仕事と介護の両立支援でどのような課題を抱えているのでしょうか。

「仕事と介護の両立で悩んでいる従業員がいても課題が顕在化してこない」が4割強。

図表8 仕事と介護との両立支援を推進する上での課題（複数回答）n=967



「今後、介護を行う従業員が増えることが懸念される」が5割強。

出所) 平成24年度厚生労働省委託調査:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「仕事と介護の両立に関する企業アンケート調査」平成 25 年3月

4. 仕事と介護の両立のポイントとはー(1)

- 仕事と介護を両立している人が両立できている理由はどのようなものでしょうか。
(厚生労働省「仕事と介護の両立のポイント」個人事例集より)

■ 自ら発信して相談する(家族、職場の仲間、介護の専門職等)

- 一人で抱え込まないように、悩みを話せる友達を作ったり、相談できる人を見つけたりすることも大切です。自分の場合、例えば、普段から職場の同僚と介護についてその日にあったこと、面白いと感じたこと、悩んでいることなどを話しています。(事例4)

■ 介護の専門職との連携しながら両立できる環境を整える

- 常に父のそばにいることはできない環境なので、自分が不在でも介護がスムーズに回るような体制づくりを心がけています。介護のための体制づくりを行うことは、遠距離介護において非常に重要なポイントです。ケアマネジャーや各事業所のサービスリーダーとメールや電話で密に連絡を取り合い、帰省するときは短時間でも必ず顔を合わせるようにすることで、良好な関係を築いています。(事例1)

■ 仕事の事前の調整

- 急に病院や施設から呼ばれた場合に、すぐに駆けつける必要があったため、自分がいなくても職場メンバーが対応できるように、常日頃から、社内のシステムネットワーク上の共有フォルダに担当業務の資料や依頼事項のデータファイルを保管するなど、気を付けていました。(事例7)

4. 仕事と介護の両立のポイントとはー(2)

■地域とのつながりを持つ

- 近所の方とのコミュニケーションも重要です。帰省のたびに挨拶に行き、見守りに協力していただいていることへの感謝の気持ちを伝えています。(事例1)
- 地域の人に対して、両親の外出時に会ったら目を掛けてくれるよう協力を依頼しました。例えば両親がよく行っていた小さな個人営業のスーパーマーケットの人に、「親が昨晚と同じ野菜や惣菜を買おうとしたら“それは昨日買ったよ”と言ってほしい」とお願いしたり、「何かあれば自分の携帯番号宛に連絡してほしい」とお願いしたりして、協力体制を作っていました。(事例7)

■自分なりの介護スタイルを。離職しないという気持ちを持って。

- 家族の数だけ、介護の形があると思います。在宅でなければだめ、施設でなければだめということはありません。親の希望としっかり向き合い、自分の生活も大切にしながら、自分なりの介護スタイルを見つけていくことが重要ではないでしょうか。(事例1)
- 何よりも、介護のために離職しないという気持ちで、仕事と介護を両立できる方法を探すことが大事だと思います。私自身がヘルパーの方のアドバイスで救われたように、仕事をしながら介護をしている人には、まずこのことを伝えたいと思います。(事例9)

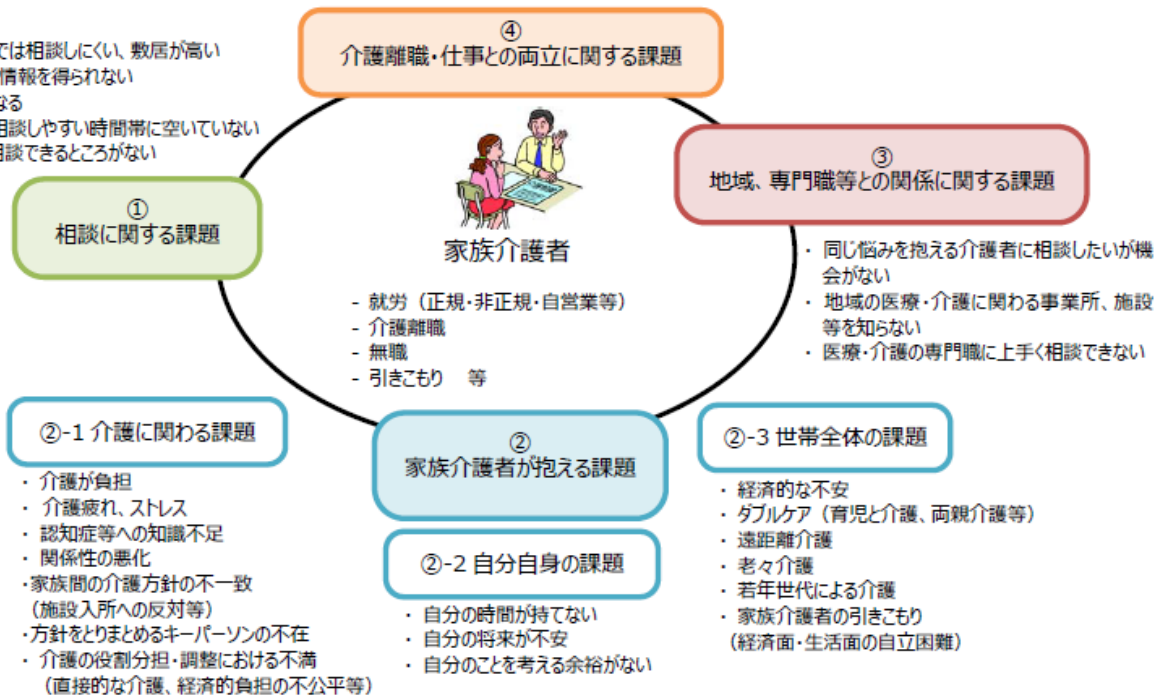
出所) 平成29年度厚生労働省委託：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「仕事と介護の両立のポイント
あなたが介護離職しないために」平成30年3月より、三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

介護分科会で考えたいこと

超高齢社会となるこれからの社会に向けて、特に社員や企業と地域の繋がりをテーマに、様々な立場の登壇者、参加者の皆さまで、ともに考えましょう。

- ・勤務先・上司等の理解不足
- ・職場に言い出しにくい
- ・両立支援制度・介護に関する基礎的な知識・情報の不足
- ・介護休業、介護休暇、有休等の取得しづらさ
- ・働く介護者のネットワーク不足
- ・中小企業、非正規雇用者における両立支援策の不足

- ・相談先がわからない
- ・不安に感じているくらいでは相談しにくい、敷居が高い
- ・相談先で本当に欲しい情報を得られない
- ・職員によって対応が異なる
- ・平日夜間・土日など、相談しやすい時間帯に空いていない
- ・地域の身近な場所に相談できるところがない



図表9
家族介護者が抱える多様な「家族介護と仕事、生活・人生の両立継続」に関する課題

注：本事業における家族介護者インタビュー、アンケート調査結果等を基に作成。

出所）厚生労働省「市町村・地域包括支援センターによる家族介護者支援マニュアル」平成30年3月
（平成29年度介護離職防止のための地域モデルを踏まえた支援手法の整備事業：
三菱UFJリサーチ&コンサルティングが厚生労働省より委託を受けて実施）

参考文献

- 内閣府「介護保険制度に関する世論調査」平成22年9月調査
<https://survey.gov-online.go.jp/h22/h22-kaigohoken/index.html> (2019/11/20取得)
- 平成24年度厚生労働省委託調査：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「仕事と介護の両立に関する実態把握のための調査研究事業報告書」平成 25 年3月
https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/h24_itakuchousa.html (2019/11/20取得)
- 総務省統計局「平成29年就業構造基本調査」平成30年7月13日
<https://www.stat.go.jp/data/shugyou/2017/index2.html> (2019/11/20取得)
- 平成24年度厚生労働省委託調査：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「仕事と介護の両立に関する企業アンケート調査」平成 25 年3月
https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/h24_survey.html (2019/11/20取得)
- 平成29年度厚生労働省委託：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「仕事と介護の両立のポイント あなたが介護離職しないために」平成 30 年3月
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/29_syosaiban_all.pdf (2019/11/20取得)
- 厚生労働省「市町村・地域包括支援センターによる家族介護者支援マニュアル」平成30年3月
(平成29年度介護離職防止のための地域モデルを踏まえた支援手法の整備事業：
三菱UFJリサーチ&コンサルティングが厚生労働省より委託を受けて実施)
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000307003.pdf> (2019/11/20取得)

ご利用に際して

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、講演者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい

